

株主のみなさまへ

第10期 事業報告書

平成13年4月 1日から
平成14年3月31日まで

Nippon Mining & Metals

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業経営に一方ならぬご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、昨年11月、(株)ジャパンエナジーとの間で、株式移転方式による共同持株会社の設立につき基本合意いたしました。その後、両社間における具体的な検討を経て、過日の定時株主総会でご承認を賜りましたとおり、本年9月27日に共同持株会社「新日鉱ホールディングス(株)」を設立することいたしました。この持株会社体制の下、当社は、そのコア事業会社として、経営効率及び収益性の一層の向上を図ってまいります。

さて、当期における我が国経済は、期末にかけて、米国経済の回復を背景とした輸出環境の改善や在庫調整の進展等により景気下げ止まりの兆しが見られましたものの、期を通じては、個人消費の低迷、設備投資の大幅な減少等により、厳しい状況が続きました。

当社の主要製品である銅は、景気低迷の影響を受けて国内需要が低調に推移し、価格は、円安による下支えはありましたものの、国際価格の下落により前期に比べ低下いたしました。亜鉛は、主要需要先である鉄鋼業界の需要が低迷し、価格も国際価格の下落を反映し

て前期に比べ低下いたしました。金属加工製品の需要は、移動体通信機器・パソコン等のIT関連分野の低迷が続く、伸銅品、特殊鋼製品ともに前期に比べ大幅に減少いたしました。

この間、当社は、生産・販売の強化、事業運営全般にわたる効率化の一層の推進等、鋭意業績の向上に努めましたものの、銅の減販及び価格低下、金属加工事業における需要不振等により、売上高は前期比17.1%減の1,940億20百万円となりました。また、営業利益は45.0%減の105億56百万円、経常利益は45.2%減の101億11百万円、当期純利益は51.0%減の49億57百万円となりました。

株主の皆様への期末配当金につきましては、1株につき5円とし、過日の定時株主総会においてご承認を賜りました。これにより、昨年12月に実施いたしました中間配当を加えた当期の年間配当金は、前期と同様1株当たり10円となりました。

当社は、一段と厳しさを増す国際競争の中、将来を見据えた経営戦略に基づき、非鉄素材事業を核とした国際優良企業を目指しております。また、経営の基本テーマとしている「資源の生産性革新」により、技術的合理性、効率性を極限まで追求し、貴重な金属資源のさらなる有効利用に努めてまいります。



代表取締役会長
坂本 卓

代表取締役社長
大木 和雄

主力の銅製錬事業においては、既に提携関係にある三井金属鉱業(株)並びにLG-ニッコー・カップー(株)との連携を一段と深めてまいります。そして、この事業提携を通じて、質・量共に世界トップクラスの銅生産者連合を構築し、提携効果の最大化を追求してまいります。また、上記提携の一環として三井金属鉱業(株)と共同で取り組んでおります次世代に向けた湿式製錬技術の開発については、官・学の協力を得て、パイロットプラント設備での性能評価試験を開始するなど、早期実用化に向けて鋭意推進しております。

もう一つの柱である金属加工事業については、国内の倉見工場において、高付加価値製品への戦略的特化を一段と推進するとともに、需要家の多くが所在する東アジアへの生産シフトを目指しております。また、今後需要の増大が期待される中国をはじめとする東アジア市場をにらみ、上海に新たな拠点を設けるなど、グループを挙げて事業基盤の拡大・強化に努めております。

前述のとおり、当社は今後、(株)ジャパンエナジーとの共同持株会社、新日鉱ホールディングス(株)のコア事業会社として、グループの経営資源を有効に活用し、事業の一段の飛躍・発展を図ってまいります。

株主の皆様には、引き続き一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長

坂本 卓

代表取締役社長

大木 和雄

特

集 共同持株会社「新日鉱ホールディングス(株)」を設立

新日鉱グループの 経営ビジョン

「資源とエネルギー」をグループのアイデンティティーとする。

スピード感に溢れ、透明性の高い経営を推進し、グループ企業価値・株主価値の最大化を図る。

地球環境問題に配慮し、資源の開発及び有効活用等に積極的に取り組む。

多様な事業領域を擁するユニークな企業グループとしての特長ある技術・ビジネスモデル等の開発に努める。

新日鉱グループの 経営目標

平成16年度の収益目標
連結経常利益780億円
(平成13年度比500億円以上の収益レベル底上げ)

財務目標
平成16年度末までに連結有利子負債2,000億円削減

設備投資及び投融資
総額1,300億円(今後3年間の予定)
(今後3年間の償却費・投資回収総額1,600億円を300億円下回る)
選択と集中により収益性の高い分野に重点投資

新日鉱グループの 経営戦略

3コア事業(石油・金属・電子材料)は、それぞれの業界においてトップクラスの競争力・収益力を実現する。

内外にわたる戦略的アライアンスを積極的かつフレキシブルに推進し、事業基盤を一層強化する。

時機に即した収益性の高い分野への重点的投資により、グループ資本効率の向上を図る。

新日鉱グループの 経営・運営体制

新日鉱ホールディングスは、グループ戦略の構築、事業会社に対するミッションの策定・業務執行のチェック及び評価を行う。

新日鉱グループ各社の資金調達・運用は、原則として新日鉱ホールディングスに一元化し、グループ資金の効率化を図る。

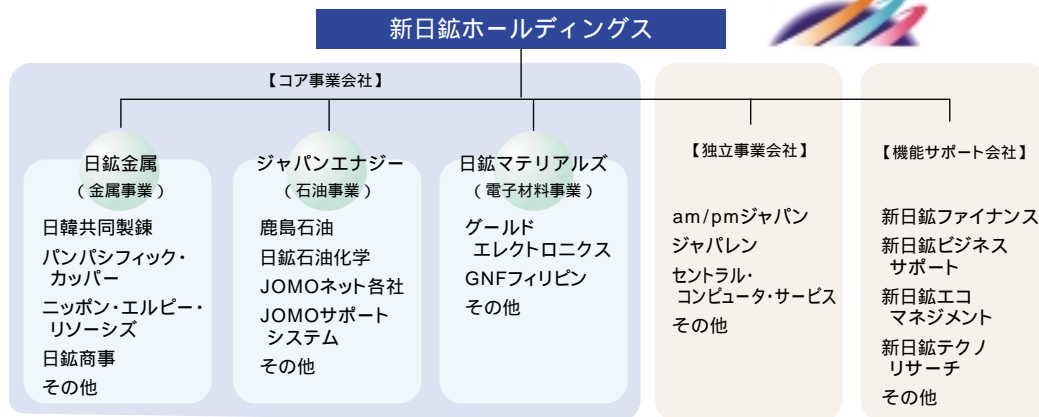
コア事業会社は新日鉱ホールディングスのミッションを受け、それぞれの事業特性に応じてスピーディーで自主性の高い運営を行う。

グループの共通業務の機能(資金の貸付・事務、経理・総務・人事の事務サービス、グループ環境管理、技術調査・コンサルティング等)を機能サポート会社を集約し、組織・要員のスリム化・効率化を図る。

当社と(株)ジャパンエナジーは平成14年9月27日に共同持株会社「新日鉱ホールディングス株式会社」を設立いたします。そして、「新日鉱グループ」の経営資源を効率的に活用し、成長戦略を積極的に展開していきます。

新日鉱グループの経営体制

シンボルマーク



新日鉱ホールディングスの概要

名称	新日鉱ホールディングス株式会社
(商号)	(英文名称:NIPPON MINING HOLDINGS, INC.)
グループの名称	新日鉱グループ (英文名称:NIPPON MINING HOLDINGS GROUP)
本社所在地	東京都港区虎ノ門二丁目10番1号
代表取締役	代表取締役会長 坂本 卓 (現:日鉱金属(株)代表取締役会長) 代表取締役社長 野見山 昭彦 (現:(株)ジャパンエナジー代表取締役会長)

資本金 400億円

決算期 3月31日

上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所、
名古屋証券取引所

今後のスケジュール(予定)

平成14年8月 9日	株券提出公告日
平成14年9月18日	株式(日鉱金属)売買最終日
平成14年9月19日	上場廃止(日鉱金属株式)
平成14年9月25日	株券提出期間満了日
平成14年9月26日	新日鉱ホールディングス株式上場
平成14年9月27日	株券移転の日、 新日鉱ホールディングス設立
平成14年11月下旬	新株券の交付

株式移転に関する Q & A

Q 株式移転とは、どういうことですか？

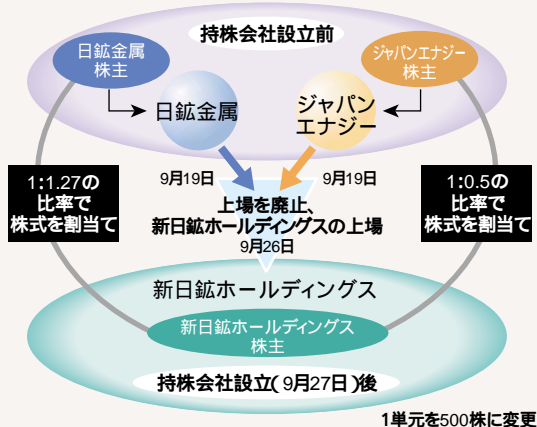
A 当社及びジャパンエナジーの株主が保有されている株式を、新日鉱ホールディングスが新たに発行する株式と交換します。その際の割当比率は、当社の株式1株に対し、新日鉱ホールディングスの株式1.27株、ジャパンエナジー株式1株に対し、新日鉱ホールディングス株式0.5株です。これにより、当社並びにジャパンエナジーの株主は新日鉱ホールディングスの株主となります。

Q 私が現在保有している当社株式は、いつどのようにして新日鉱ホールディングス株式と交換してもらえるのですか？

A 株主ご所有の株券を全てご提出いただくことが必要となります。本年8月上旬にお送りする予定の株券提出手続に関するご案内をご高覧のうえ、必要な手続をお取りいただくこととなります。新株券は本年11月下旬にお手元に届くようお送りします。当社株券ご提出後、新株券がお手元に届くまでの間は、株式の売却ができなくなりますのでご注意ください。

当社株式について「株券等の保管振替制度」をご利用になると、株券提出手続は不要となります。この場合は、当社株式上場廃止日(平成14年9月19日予定)から新日鉱ホールディングス株式の上場日(平成14年9月26日予定)の前日までを除き、株式の売却ができます。なお、「株券等の保管振替制度」のご利用につきましては、お取引証券会社にご相談ください。

株式移転による株主のポジション



Q 1単元の株式の数が500株になるとは、どのようなことですか？

A 従来は、1,000株を株式売買と株主総会における議決権の単位としておりましたが、今後は、500株をその単位とさせていただきます。

これは、ジャパンエナジー株式の新日鉱ホールディングス株式への移転割当比率を1:0.5としたことにより、従来どおり1,000株を1単元とした場合、2,000株未満のジャパンエナジー株式が単元未満株式となり、議決権を失うことになることから、これを避けるためです。

Q 株式移転により生じた単元未満株式を、買い増しにより1単元とするにはどのようにすればよいですか？

A 商法改正により、会社による買増サービスが事実上できなくなりましたので、そのまま保有していただくか、もしくは、会社にお買取請求手続をお取りいただいた上で、あらためて1単元分の株式を株式市場などでご購入いただくこととなります。

業績及び事業内容（連結）（自平成13年4月1日 至平成14年3月31日）

（単位：百万円）

当期の業績

当期の連結業績につきましては、金属事業におけるパンパシフィック・銅パー(株)の本格寄与により、売上高は前期並みの2,971億16百万円となりました。しかしながら、銅の国際価格の下落がありましたほか、金属加工事業における需要不振により、営業利益は、前期比57.2%減の90億15百万円となり、経常利益は、L G-ニッコー・銅パー(株)等持分法適用会社の増益はありましたものの、前期比43.2%減の127億3百万円、当期純利益は前期比46.7%減の56億53百万円となりました。

金属事業

主要製品は、電気銅、硫酸、金・銀等の貴金属、亜鉛及びインジウム等のレアメタルであります。

売上高は、当社における電気銅の減販、金属価格の下落はありましたが、パンパシフィック・銅パー(株)の本格寄与等により、前期比11.4%増の2,268億90百万円となりました。営業利益は、当社における生産コスト改善及び日韓共同製錬(株)における受取配当金による増益はありましたが、銅・亜鉛・パラジウム等金属価格の下落及び硫酸市況の悪化による減益を主因として、前期比34.3%減の66億65百万円となりました。

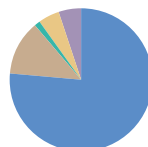
金属加工事業

主要製品は、伸銅品(りん青銅、黄銅、洋白等の条及び銅箔)特殊鋼製品(アンバー、軟鋼、ステンレス等の条)及び電子部品加工製品であります。

売上高は、移動体通信機器・パソコン等のIT関連分野の低迷が続き、伸銅品、特殊鋼製品ともに大幅な減販となり、前期比33.9%減の369億11百万円となりました。営業利益は、当社におけるコスト改善はありましたが、国内外の需要減による大幅な減販及び減産により、前期比84.4%減の13億94百万円となりました。

	当期の業績	対前期比
売上高	2,971,116	0.6%減
営業利益	9,015	57.2%減
経常利益	12,703	43.2%減
当期純利益	5,653	46.7%減

事業別売上高構成比



金属	76.4%
金属加工	12.4%
環境リサイクル	1.3%
エンジニアリング・コンサルティング	4.8%
その他	5.1%

(注) 構成比率は、セグメント間の取引による内部売上高を含めていません。

環境リサイクル事業

主要事業は、産業廃棄物の無害化・減容化処理、有価金属のリサイクル及び非鉄金属スクラップの集荷であります。

売上高は、景気低迷に伴う産業廃棄物の発生量の減及び銅・貴金属スクラップの集荷減等により、前期比28.8%減の38億75百万円となり、営業利益は前期比49.5%減の6億43百万円となりました。

エンジニアリング・コンサルティング事業

主要事業は、エンジニアリング・コンサルティング事業であります。

売上高は、(株)日鉱ポリテックにおけるエンジニアリング及び資材販売の収入減はありましたが、日鉱探開(株)の試錐工事収入の増等により、前期並みの141億70百万円となり、営業利益は前期並みの1億29百万円となりました。

その他の事業

主要事業は、(株)日鉱物流パートナーズ、日本マリン(株)等における物流関連事業等であります。

売上高は、(株)日鉱物流パートナーズの業務の一部をパンパシフィック・銅パー(株)へ移管したこと等により、前期比23.2%減の152億70百万円となり、営業利益は前期比70.5%減の1億84百万円となりました。

業績の推移（連結）

主要財務数値

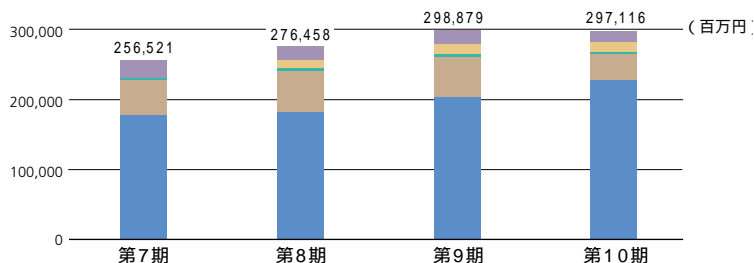
	第7期 (平成10年度)	第8期 (平成11年度)	第9期 (平成12年度)	第10期 (平成13年度)
売上高(百万円)	256,521	276,458	298,879	297,116
経常利益(百万円)	14,397	15,657	22,364	12,703
当期純利益(百万円)	7,411	8,260	10,609	5,653
1株当たりの当期純利益(円)	34.24	36.27	46.22	24.63
総資産(百万円)	289,527	311,691	324,203	346,377
株主資本(百万円)	79,313	86,456	92,956	102,137

- (注) 1. 1株当たりの当期純利益は、期中平均株式数を基準として算出しております。
2. 第8期より税効果会計を適用しております。

売上高の推移

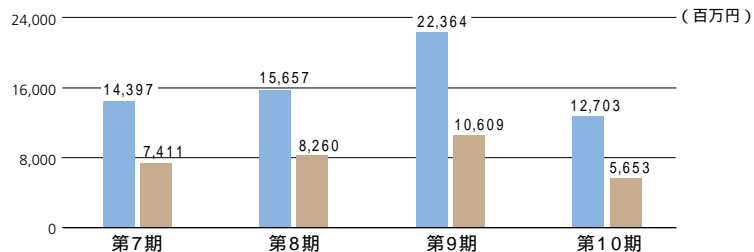
金属事業
金属加工事業
環境リサイクル事業
エンジニアリング・
コンサルティング事業
その他の事業

- (注) 第8期より「エンジニアリング・コンサルティング事業」セグメントを新設し、「その他」セグメントから組み替えております。

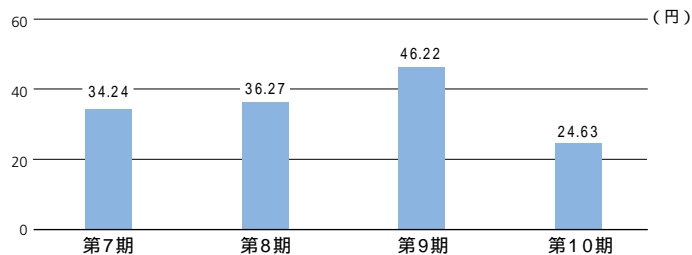


利益の推移

経常利益
当期純利益



1株当たりの当期純利益



業績の推移（個別）

主要財務数値

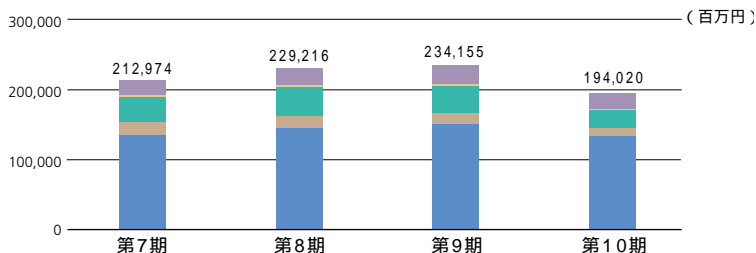
	第7期 (平成10年度)	第8期 (平成11年度)	第9期 (平成12年度)	第10期 (平成13年度)
売上高(百万円)	212,974	229,216	234,155	194,020
経常利益(百万円)	14,956	14,907	18,442	10,111
当期純利益(百万円)	8,962	8,512	10,118	4,957
1株当たりの当期純利益(円)	41.41	37.38	44.08	21.60
総資産(百万円)	242,872	250,257	250,595	256,703
株主資本(百万円)	66,613	73,459	81,471	85,215

- (注) 1. 1株当たりの当期純利益は、期中平均株式数を基準として算出しております。
2. 第8期より税効果会計を適用しております。

売上高の推移

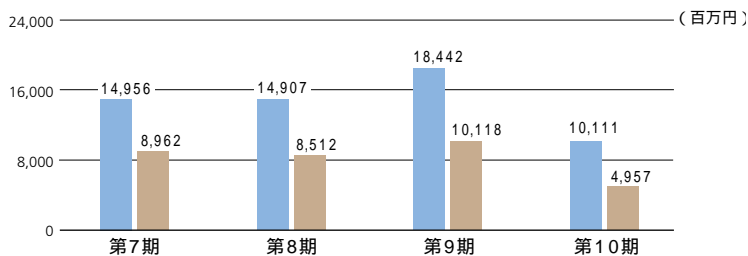
銅製錬事業
亜鉛製錬事業
金属加工事業
精密加工事業
環境リサイクル事業

- (注) 1. 構成比率は、部門間取引で発生した内部売上高を含めて算定しています。
2. 精密加工事業は、平成13年10月に子会社の富士電子工業(株)に移管しました。

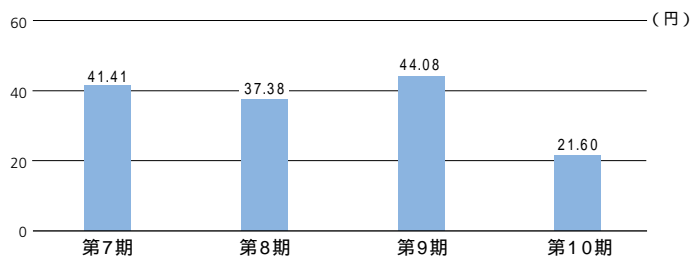


利益の推移

経常利益
当期純利益



1株当たりの当期純利益



事業の種類別セグメント情報

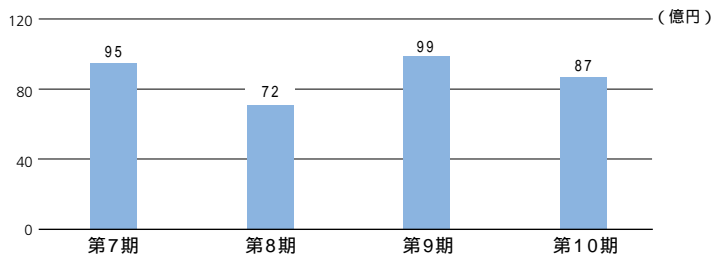
(自平成13年4月1日 至平成14年3月31日)

(単位: 百万円)

	金属事業	金属加工事業	環境リサイクル事業	エンジニアリング・コンサルティング事業	その他の事業	合計
売上高	226,890	36,911	3,875	14,170	15,270	297,116
営業利益	6,665	1,394	643	129	184	9,015
減価償却費	6,039	3,153	608	194	532	10,526
設備投資額	4,742	1,745	672	154	1,357	8,670

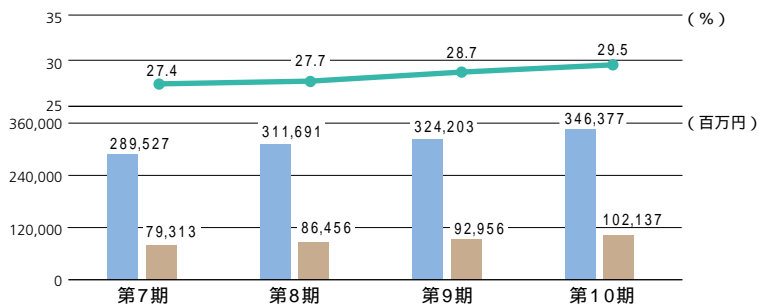
(注) 売上高はセグメント間の取引による内部売上高を含めていません。

設備投資額

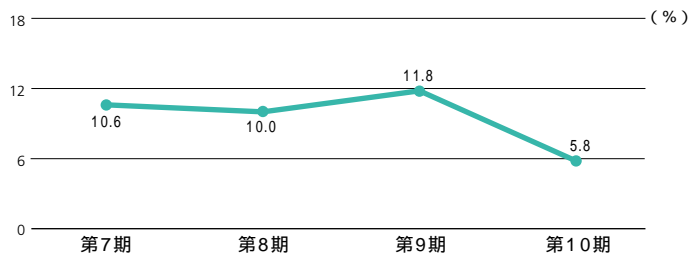


資産状況の推移

総資産
株主資本
株主資本比率



株主資本利益率(ROE)



個別

事業の種類別セグメント情報

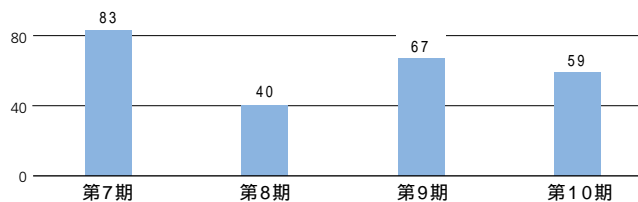
(自平成13年4月1日 至平成14年3月31日)

(単位：百万円)

	製錬事業部門		加工事業部門		環境リサイクル 事業部門	計	本社 部門費等	合計
	銅製錬事業	亜鉛製錬事業	金属加工事業	精密加工事業				
売上高	149,614	13,962	28,205	945	25,785	218,514	24,493	194,020
営業利益	9,938	1,357	2,253	61	765	14,254	3,697	10,556
減価償却費	4,309	14	2,372	92	523	7,313	178	7,491
設備投資額	3,729	—	1,295	195	556	5,776	157	5,933

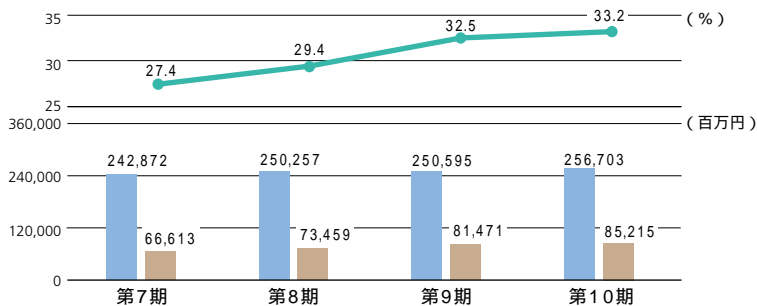
設備投資額

(億円)

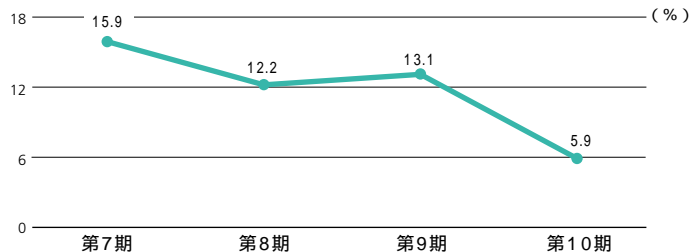


資産状況の推移

総資産
株主資本
株主資本比率



株主資本利益率(ROE)



財務諸表（連結）

貸借対照表

（単位：百万円）（単位未満四捨五入）

科目	第9期	第10期
	（平成13年3月31日現在）	（平成14年3月31日現在）
（資産の部）	324,203	346,377
流動資産	127,424	129,752
固定資産	196,592	216,512
繰延資産	187	113
資産合計	324,203	346,377
（負債の部）	220,543	230,923
流動負債	138,295	143,821
固定負債	82,248	87,102
（少数株主持分）	10,704	13,317
（資本の部）	92,956	102,137
資本金	34,997	34,997
資本準備金	9,405	9,405
連結剰余金	50,556	53,874
評価差額金	—	1,185
為替換算調整勘定	2,002	2,676
自己株式	0	0
負債、少数株主持分及び資本合計	324,203	346,377

損益計算書

（単位：百万円）（単位未満四捨五入）

科目	第9期	第10期
	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日
売上高	298,879	297,116
営業利益	21,084	9,015
経常利益	22,364	12,703
税金等調整前当期純利益	19,872	11,278
当期純利益	10,609	5,653

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）（単位未満四捨五入）

科目	第9期	第10期
	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	23,943	19,300
投資活動による キャッシュ・フロー	8,415	15,357
財務活動による キャッシュ・フロー	14,775	414
現金及び現金同等物に 係る換算差額	214	280
現金及び現金同等物の 増加額	967	4,637
現金及び現金同等物の 期首残高	5,455	6,806
新規連結子会社の現金 及び現金同等物の期首残高	384	1,342
現金及び現金同等物の 期末残高	6,806	12,785

剰余金計算書

（単位：百万円）（単位未満四捨五入）

科目	第9期	第10期
	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日
連結剰余金期首残高	42,054	50,556
連結剰余金増加高	—	—
連結剰余金減少高	2,107	2,335
連結子会社増加による 剰余金減少額	2	—
配当金	2,065	2,295
役員賞与	40	40
当期純利益	10,609	5,653
連結剰余金期末残高	50,556	53,874

財務諸表（個別）

貸借対照表

（単位：百万円）（単位未満切り捨て）

科目	第9期	第10期
	(平成13年3月31日現在)	(平成14年3月31日現在)
(資産の部)	(250,595)	(256,703)
流動資産	102,447	95,661
固定資産	148,060	161,041
繰延資産	88	—
資産合計	250,595	256,703
(負債の部)	(169,124)	(171,487)
流動負債	117,369	111,864
固定負債	51,754	59,623
(資本の部)	(81,471)	(85,215)
資本金	34,997	34,997
資本準備金	9,405	9,405
利益準備金	812	932
剰余金	36,256	38,759
評価差額金	—	1,122
自己株式	—	0
負債及び資本合計	250,595	256,703

損益計算書

（単位：百万円）（単位未満切り捨て）

科目	第9期	第10期
	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日
売上高	234,155	194,020
営業利益	19,191	10,556
経常利益	18,442	10,111
税引前当期純利益	17,068	8,221
当期純利益	10,118	4,957

利益処分計算書

（単位：百万円）（単位未満切り捨て）

科目	第9期	第10期
	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日
当期末処分利益	30,129	32,764
任意積立金取崩額		
特別償却準備金取崩額	23	23
海外投資等損失準備金取崩額	77	77
固定資産圧縮積立金取崩額	32	32
計	30,262	32,898
これを次のとおり処分いたしました。		
利益処分額		
利益準備金	120	—
株主配当金 (1株につき5円)	1,147	1,147
取締役賞与金	40	22
海外投資等損失準備金	0	—
次期繰越利益	28,954	31,729

(注)当期は平成13年12月11日に1,147百万円(1株につき5円)前期は平成12年12月11日に1,147百万円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。

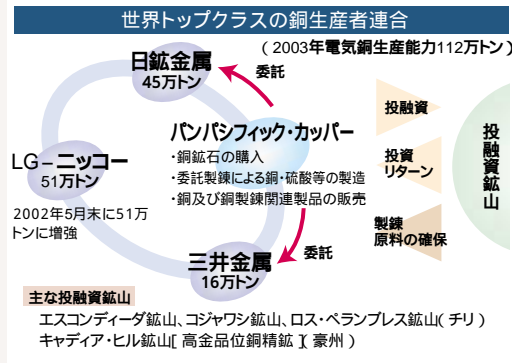
三井金属鉱業(株)とのさらなる提携の強化 パンパシフィック・銅パー(株)による 原料調達・生産・販売一貫体制を構築

当社は、三井金属鉱業(株)と銅製錬事業に関する包括的な業務提携を推進しています。既に、その一環として、電気銅及び硫酸の共同販売会社パンパシフィック・銅パー(株)や共同買鉱エージェント会社を設立するなど、原料調達、製品販売、市場開拓、技術開発等の広範にわたりその効果を着実に上げています。

この提携効果を更に高めるため、2003年4月の移行を目的に、従来の体制を改め、「パンパシフィック・銅パー(株)が買鉱、生産、販売の各計画を策定するとともに、自らが買鉱し、その鉱石の製錬を当社、三井金属鉱業(株)両社に委託、そして返還された製品を販売する」一貫体制を構築することといたしました。

また、パンパシフィック・銅パー(株)は、鉱山投融資、新技術開発等の企画・立案・推進も行います。

当社は、これにより、提携効果の拡大とその達成へのスピードアップを図り、銅製錬事業の国際競争力を一段と強化してまいります。



バイオ・マイニング技術開発プロジェクトの 推進 チリ・コデルコ社と新会社を共同で設立

当社は、世界最大の銅生産者であるチリ国営銅公社・コデルコ社と共同で、微生物を利用した鉱業用のバイオ技術開発プロジェクトを推進する新会社を、2002年6月に設立いたしました。

このプロジェクトは、チリ共和国政府の支援を得て、ゲノム学、蛋白質学、バイオ情報学などの遺伝子工学分野における研究開発を通じ、微生物を利用する鉱業技術の確立を目指しています。また、このプロジェクトの推進により、その商用化実現による利益が見込めることに加え、バイオ技術の習得、それを利用した新規鉱山開発への参加機会の増加等が期待できます。

さらに、バイオ技術はSX-EW銅鉱山の運営にも大きく関係しています。既に同技術を利用したSX-EW銅鉱山を運営し、同技術に深い知見を持つコデルコ社との絆を一段と強めることができるとともに、当社が現在鋭意推進している湿式製錬プロセスの実用化にも資するものと期待しています。



コデルコ社のチュキカマタ鉱山 ミナ スール採掘場

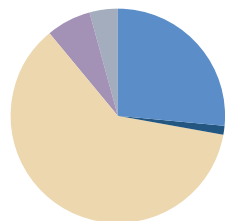
会社概要 (平成14年3月31日現在)

株式の状況

発行済株式の総数	229,544,206株
株主数	5,344名
大株主一覧	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ジャパンエナジー	132,240	57.61
三菱信託銀行株式会社(信託口)	8,615	3.75
バンク オブ ニューヨーク フォー ゴールドマンサックス インターナショナル(エクイティ)	5,916	2.58
日本トラステイ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	5,259	2.29
株式会社日本興業銀行	5,000	2.18
日本トラステイ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	3,981	1.73
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	3,680	1.60
野村信託銀行株式会社(投信口)	3,451	1.50
中央三井信託銀行株式会社	2,900	1.26
株式会社三井住友銀行	2,607	1.14
株式会社第一勧業銀行	2,300	1.00
日産火災海上保険株式会社	2,200	0.96
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	2,041	0.89

所有者別株式分布状況



金融機関	26.49%
証券会社	1.34%
その他の法人	61.17%
外国法人等	6.74%
個人その他	4.26%

資本金 34,997百万円

従業員数 1,490名

本店 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号
http://www.nikko-metal.co.jp/

支社/支店/ 大阪支社(大阪府)
営業所 名古屋支店(愛知県)
九州営業所(福岡県)

事務所 オーストラリア事務所
チリ事務所

主要事業所 日立工場(茨城県)
佐賀開製錬所(大分県)
倉見工場(神奈川県)

重要な子会社 日韓共同製錬株式会社
バンパシフィック・銅株式会社
ニッポンマイニング オブ ネザerland社
豊羽鉱山株式会社
日本マリン株式会社
日鉱商事株式会社
株式会社日鉱物流パートナーズ
株式会社日鉱ポリテック

役員 (平成14年6月25日現在)

代表取締役会長 坂本 卓
代表取締役副会長 清水 康行
代表取締役社長 大木 和雄
取締役 宇野 智
取締役 久留嶋 毅
取締役 木原 徹
取締役 佐藤 啓一
取締役 山本 英興
取締役 清水 雄司
監査役 小林 壯太
監査役 上田 健次
監査役 池田 致

株主メモ

本店

東京都港区虎ノ門二丁目10番1号
(〒105-0001)
電話 (03) 5573-7267
(本部コーポレート担当総務)

決算期

3月31日

定時株主総会

6月

基準日

定時株主総会権利行使株主確定 3月31日
株主配当金受領株主確定 3月31日
中間配当金受領株主確定 9月30日

名義書換代理人

中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号

(電話お問合せ・郵便物送付先)

中央三井信託銀行株式会社証券代行部
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(〒168-0063)
電話 (03) 3323-7111(代表)

(同取次所)

中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店、全国各支店

(お知らせ)

当社は、今般、決算公告に代えて、貸借対照表及び損益計算書をホームページに掲載することとしました。決算状況のホームページアドレスは次のとおりであります。

<http://www.nikko-metal.co.jp/ir/index.html>